

聖母被昇天をお祝いいたします。

今年も、戦争の犠牲者のために祈り、平和を求める8月がやってきました。しかし、安倍政権によって日本の平和の基礎が大きく変わり、「過ちは繰り返しませんから」との誓いが脅かされる年となってしまいました。多くの犠牲者を出した沖縄、広島、長崎の思いを伝えるために、平和の元后である被昇天の聖母の取り次ぎを求めて、平和旬間を大切に過ごしたいと思います。

さて今回も、カトリック映画賞授賞式&上映会、鹿児島上映会、SIGNIS感謝ミサなど、盛りだくさんの内容です。ぜひ、お読みください。

日本カトリック映画賞 授賞式&上映会 報告

5月5日(月)、なかのZERO小ホールで第38回日本カトリック映画賞の授賞式と上映会が開催されました。授賞作品は、池谷薫監督の『先祖になる』(2012年/蓮ユニバース製作・配給)。東日本大震災で長男を亡くした77歳の佐藤直志さんが、半壊した家に住み続けながら家を建て直そうとする118分のドキュメンタリー映画です。復興への夢を語る



佐藤さんの姿に惚れ込んだ池谷監督は、寄り添うように撮影を重ね、困難の中にあっても感謝を忘れず、仲間を大切に生きていく人間の素晴らしさを見事に描き出しています。

授賞式には、幸田和生司教（東京教区・シグニス ジャパン顧問司教）も出席、人との出会い、連帯を広げていくことの大切さについてのお話がありました。上映後には池谷薫監督と顧問司教である晴佐久昌英神父の対談があり、撮影裏話やそれぞれの被災地への思いなどが語られました。晴佐久神父からは、仏教徒である佐藤さんが主人公のこの映画にベルリン国際映画祭エキュメニカル賞特別賞、そして日本カトリック映画賞が授与されたことについてどう思っていますかなどの興味深い質問もあり、対談は大いに盛り上がりを見せました。お二人の対談から特定の宗教を超えた人と人のつながりの素晴らしさが伝わり、満席の会場が感動の熱気に包まれました。

大勢の皆様のご協力のおかげで意味ある授賞式と上映会を開催できましたことを感謝申し上げます。（鈴木）

写真：千葉会長から池谷監督へ表彰状授与

「隣る人」上映でまた新たな出会い

4月5日～11日 鹿児島市にて、第37回日本カトリック映画賞授賞作品「隣る人」の上映会が、鹿児島コミュニティシネマおよびカトリック鹿児島教区のご協力を得て開催されました。上映を実現して下さったコミュニティシネマの黒岩美智子さんが記事を寄せて下さいました。 写真：黒岩さん（シネマロビーにて）

「隣る人」を鹿児島で上映しませんか、とのお話をシグニス ジャパンの町田雅昭さんからいただいたのは昨年12月のこと。以前配給会社よりご案内いただいて伝えたい作品と想っていたが上映に踏み切れなかった。ドキュメンタリー映画はただ上映したのではなかなか集客に結びつかない。仕掛けが必要なのでそのままになっていた作品であった。

鹿児島コミュニティシネマは、さまざまな国のさまざまな映画を通して感動の輪を広げたいと2007年より活動をはじめた団体で、2010年から縁あってマルヤガーデンズでガーデンズシネマという39席のミニシアターを運営させてもらっている。今回シグニス ジャパンさんのご協力をいただけるということで4月の上映に踏み切った。推進役は地元の有馬啓介さん。そして刀川和也監督はじめ企画の稲塚由美子さん、舞台となった光の子どもの家の理事長菅原哲男さんもお越しくくださることに。ありがたい事態となった。

せっかくの機会なのでトークイベントをお願いしたらOKの返事。以前お世話になった地元の愛の聖母園の方にも加わっていただこうと持ちかけたら、なんと菅原理事長と懇意という上原康祐さんにつながった。また当日東京からシグニスの鈴木浩さん、泉塩子さんも応援に駆けつけてくださった。

こうして迎えた初日はおかげさまで満席に。お話しすばらしく、より映画の理解が深まり開いてよかったと実感した。まさに映画「隣る人」に寄り添う隣る人たち。交流会では意外なお話も聞け、楽しいひと時を過ごさせてもらった。映画の感動でつながったまた新たな出会い。つながりを大切にする映画「隣る人」での出会いに感謝である。

一般社団法人鹿児島コミュニティシネマ代表理事 黒岩美智子



第2回 SIGNIS JAPAN 感謝ミサ&交流会のご報告

6月28日(土)カトリック多摩教会をさせていただき、賛助会員の方々の日頃のご協力とご支援に感謝するとともにシグニスがこれからも神のよい知らせを伝えていくことができるよう、感謝ミサをお捧げしました。当日は、時折激しい雨となりましたが、賛助会員と多摩教会有志の方々が出席してくださいました。

「今日はようこそ！集まった人の思いによって、ミサが変わるんですよ。気配が、いい気配ですよ」で始まった感謝ミサ。お説教では、ローマでの4月の列聖式ミサの前に流れたメロディーに晴佐久神父が日本語の歌詞をつけられ、♪こころの扉を開け、キリストに。恐れず迎え入れよう、神の愛をいま♪と歌ってくださり、何かとても温かな雰囲気の中で、こころを一つにお祈りすることができました。また交流会では、多摩教会有志の方が手作りしてくださった美味しいケーキをいただきながら、自己紹介を兼ねそれぞれが今まで観た映画で一番よかったもの、また福音的と思う作品などをお話いただき、懐かしいものや忘れていた作品などもあり、大いに盛り上がりました。ご参加くださったみなさま、ありがとうございました。(谷口)



今年もシグニス ジャパンは頑張ります！ 総会報告

5月20日(火)にシグニス ジャパンの年次総会があり、事務的な事は簡略化し、2014年度の基本活動方針や具体的な活動計画を話し合いました。継続は力なりで、映画賞・上映会やインターネットセミナー、シグニス感謝ミサ、世界のシグニス仲間との共同プロジェクトを通して、仲間を増やし、人間の尊厳、和解、平和のためのメディアを目指します。昨年度同様に活動の場を東京地区以外にも拡げられる様に努力します。メディア教育は引き続き我々の課題です。また、ご他間に洩れず世代交代も課題です。今年度は青年達の宣教プロジェクト「カトリック青年インターネットラジオ」を応援し、若者達との更なる交流でお互いを刺激・活性化し合うことがテーマに加わりました。この若者達が世代間の架け橋となり、大きな輪となって拡がることを願っています。

まだまだちいさな集まりで非力なシグニスジャパンですが、神様が応援してくださる、実際は神様と力を合わせて働いているんだと、勇気と力をいただいて、今日も頑張ります。よろしくご支援ください。(事務局 町田)

会員紹介 杉野希都 (カトリック清瀬教会)

僕は元々大学で映画を専攻していたんですが、シグニスに入ってからメディアの役割や、福音を伝えるってどういうことだろう？ということ、より深く考える機会と、環境を与えて頂いています。カトリックメディアとして伝えるべきメッセージやコンテンツの核になるものというのは、実は二千年前から何も変わってなくて、現代の私たちに課せられているのは、その「伝え方」を模索することなんです。伝えるべき相手にどこまで寄り添えるのかを実践すること、と言い換えられるかもしれません。韓国やローマでのシグニスの会議に行かせて頂いて総じて感じたことは、この「伝える」こと



に信徒自身が参画する大切さです。そこで今シグニスの援助を受けながら、青年たちが自分たちの手で福音のメッセージを、日本の同世代の若者たちに発信するインターネットラジオプログラム、「カトラジ！」を立ち上げて進めています。青年たちが葛藤しながら企画、発信するプロジェクトというのがウリですが、その派遣される青年たちをシグニスや教区、各団体が霊的、技術的養成・支援をしていく「教会」的な構図にも魅力を感じます。僕は現在27歳でまだ若いと言われつつも、そろそろいい歳になってきたという若干の自覚も出てきたので(笑)、引き続きシグニスで「伝え方」を模索しつつも、こうやって世代間を繋ぐような役割も模索していく頃なのかなと感じております。

賛助会員募集

一緒にメディアを通して福音を伝えていきましょう！

私たちSIGNIS JAPANの活動をサポートして下さる賛助会員を募集しています。会員の方には、ニュースレター「タリタ・クム！」をメールまたは郵便にてお届けする他、今年も賛助会員と共に捧げる感謝のミサを東京地区で予定しています。詳細は賛助会員の皆さまにご連絡させていただきます。年会費一口 3,000 円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記までお知らせ下さい。どうぞよろしくお願いいたします！

〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 聖パウロ女子修道会内 SIGNIS JAPAN / info@signis-japan.org
会費およびご寄付は、下記へ振込みをお願いいたします。

銀行振込 三菱東京UFJ銀行 六本木支店 普通 1679019 SIGNIS JAPAN 代表 千葉茂樹
郵便振替 口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 千葉茂樹